

JSR 株式会社

2023年3月期第3四半期決算説明電話会議 議事録

(2023年2月6日開催)

決算補足資料:

https://ssl4.eir-parts.net/doc/4185/ir_material_for_fiscal_ym/130565/00.pdf

P3 全体サマリー：重要なポイント

今回決算を通じた当社からの重要なポイント

- ・当社の長期的成長ドライバーは不変。
- ・SEMIにおいて、顧客の微細化ロードマップに応じた技術開発リソースの積極投入を継続し、先端領域でのシェア拡大を進める。M&Aを含む戦略的投資及び研究開発に注力すると同時に、コスト構造の見直しも強化。
- ・LSにおけるKBI Biopharma (KBI)の新工場立上げを含むオペレーショナルエクセレンスへ更に注力する。
- ・需要調整局面だが、V字の収益回復・成長へ道筋をつける。

P4 全体サマリー：各事業及び通期見通し

(経営環境)

SEMI：昨年11月以降、業界全体の需要が急落。在庫調整のため顧客の慎重な動きが続く。需要が

V字回復する時期に向け、戦略的投資は継続しつつ、コスト削減・効率化を進める。

DISP：今年度上期に大幅な需要減による顧客の大規模な稼働調整が発生したが、9月以降回復基調にある。コスト構

造は最適化しており、中国での新規材料のシェア拡大が進捗している。

LS：需要環境は総じて堅調。株式会社医学生物学研究所（MBL）の抗原検査キットの販売が拡大している。KBIの新

工場の立上げに注力。FY23も需要は堅調な見通しで、KBIの売上利益の成長、CROの事業拡大を見込む。

(通期業績予想)

- ・今回、売上・利益の下方修正を行う。SEMIのQ3以降の需要下落と戦略的投資の継続が背景。

P5 全体サマリー：コア営業利益

(Q3累計) YoY増収減益。

DS：前年度特殊要因のInpria評価益を除き21億円の減益。SEMIは増収増益。EUV販売及び先端領域でのシェア

拡大。併せて戦略的投資も拡大している。DISPは減収減益。パネル市況の下落。3Qに回復に転じる。ECは減収減益。

LS：増収増益。MBLの抗原検査キットの拡販。KBIの新工場で商業生産の1stバッチの生産が1月に完了した。

PLA：増収減益。自動車市場の回復遅れが影響。

(通期業績見通し)

- ・通期業績見通しのコア営業利益を550億円から340億円に下方修正。

DS：SEMIの対面市場の減速。3Qから4Qに需要急減速。顧客の在庫調整により受注が下落する見通し。保守的な要

素も含む。又、他のDS事業も同様だが円安影響も含めた原料価格、輸送費が高騰。洗浄剤の受払差など会計要因による固定費増あり。DISP、ECは対前回計画から市場回復が遅れた。

LS：コア営業利益見通しに変更なし。

PLA：自動車市場の回復遅れ。又燃料価格の高騰が下期から影響している。

P6 決算のポイント

(SEMI)

- ・Q3の後半より車載向け等一部除き Memory、Logic を含むほぼ業界全体で需要が悪化。
- ・Q4は保守的な要素含む大幅な減収を折り込む。
- ・EUVは3nm向けが順調に拡大、来年度以降に立ち上がる3nm以下のプロセスでもシェア拡大の見通し。DRAMの先端分野での採用も進んでいる。

(DISP)

- ・パネル市況回復により3QはQoQで増収増益。パネルメーカーの稼働は9月を底に回復が続いており来期に向けても緩やかな回復が続くとみている。
- ・新材料のシェア拡大が来期寄与する見通し。

(EC)

- ・スマホ業界の生産調整の影響を受けた。

(LS)

- ・MBLの抗原検査キットの販売好調によりQoQは大幅な増収増益を達成。
 - ・KBIは商業生産の1stバッチが1月に生産完了。以降のバッチも継続的に生産を進めておりQを通じ稼働を引き上げている。
- ※KBI新工場の稼働状況、CRO分野での買収に関しては後述。

(PLA)

- ・QoQでは販売数量の拡大と売買スプレッドの改善により増収増益。

P7 決算ハイライト YoY, QoQ

(YoY) 増収減益

DS：増収減益。昨年度はInpria買収に伴う評価益75億円を計上。当要因を除いても減益。売上はSEMIが拡大も、DISP、ECが減少。SEMIの戦略投資も増大し全体では減益。

LS：増収増益。KBIの先行投資が拡大するが、各サブセグメントの売上成長により増収。特にMBL抗原検査キットの販売増により増益。

PLA：増収も、原料高騰による上期の売買スプレッド悪化により減益。

(QoQ) 増収増益

DS：SEMIは出荷集中でQ2の売上が過大であった反動、又3Q後半からの需要減により減収減益。DISPは増収増益。

LS：MBLの抗原検査キットの販売好調により増収増益。

PLA：販売数量、売買スプレッドの改善により増収増益。

*今回より参考値として為替影響を除いた恒常為替レート(CER)ベースでのYoYの比較を掲載している。

P8 セグメント別損益：デジタルソリューション事業

(YoY) 増収減益

- ・SEMIは売上増加。EUV始め強い成長。為替影響を除くと+10%程度の成長。DISPは販売量の減少により減収減益。

顧客稼働の影響。EC もスマホ市場低迷の影響を受け、減収となった。

- ・DS 事業全体では減益。Inpria 評価益要因を除き SEMI は増収増益。為替もプラス要因。コストは Inpria 統合による MOR 関連のコストの増加に加え、アジア販売拠点強化等での先行投資を拡大。Others の 2 段目は会計要因や一時費用等を区別して記載している。
- ・原料価格等の高騰が利益を押し下げた。
- ・間接費用の増加については中期的な観点で最適化を進める方針。

(QoQ) 減収減益

- ・SEMI の販売が減少。一方 DISP は+20%の増収。パネルメーカーの稼働が回復に向かう。
- ・コア営業利益はほぼ数量差による減益。

P10 セグメント別損益 ライフサイエンス事業

(YoY) 増収増益

- ・各サブセグメントで売上が大幅に拡大。
- ・IVD が大幅売上げ。MBL の診断薬事業が伸長しており、特に抗原検査キットの販売が拡大した。

(QoQ) 増収増益

- ・各サブセグメントの売上収益が拡大。
- ・特に抗原検査キットの販売が大きく伸び、増益に貢献。
- ・CDMO は増収も、在庫廃棄により若干の減益。

P11 セグメント損益 合成樹脂事業

(YoY)増収減益

- ・販売減及び受払差等の会計要因により減益。原料価格の高騰あるも、販売価格の改定も進み、売買スプレッドには大きな影響なし。

(QoQ)増収増益

- ・自動車市場は回復基調にあり販売が伸びた。又販売価格も改定が進み、売買スプレッドが拡大した。

P12 通期業績予想

- ・今回、売上高を 4,110 億円、コア営業利益を 340 億円に下方修正する。Q3 累計のコア営業利益は 315 億円であり、Q4 は 25 億円と Q3 の 146 億円から大幅な減益を織り込む。

DS：需要環境悪化により各サブセグメントでの売上・利益の減を見込む。

SEMI は特に下期の急減速を織り込む。Q4 見通しは後述するが保守的な要素も含めた。

DISP、EC は前回見通し対比での市場回復遅れを反映。

これら販売減少に加え、インフレ及び円安影響を含め原料、輸送費用、ユーティリティ費用の高騰が前回の通期業績予想修正以降に顕著になっており、減益要因として織り込んだ。これらは価格政策を含め対応を実施していく。

又 SEMI の会計要因の固定費計上が発生。

LS：売上が微増も利益は計画と変更なし。

PLA：売上利益とも下方修正。自動車市場回復の遅れに加え家電や電子機器等の市場も軟調。ユーティリティ費用上昇の影響も加味。

P13 経営環境 Q4 及び来期の見通し

・Q4 は半導体市場の需要減速の影響を受ける見込み。但し、SEMI の保守的な見積もり、DISP の Q4 季節要因である稼働日数減の影響、LS は KBI のコロラド工場の大規模修繕の特殊要因、その他定修等期末の発生費用など Q4 固有の要因も含む。Q4 見通しがそのまま FY23 も継続するわけではない点強調したい。

(SEMI)

・Q4 については、需要減速の影響が出た Q3 から更に 20%の販売減を折り込んだ。Q4 は顧客の在庫調整の要素が入り、保守的な見積もりを行った。売上換算で約 30 億円は Q4 の一時要因及び保守的な見積もりによるマイナス影響。
・FY23 は当面の調整局面を見込むが EUV 等のシェアは拡大方向であり V 字の回復を見込む。

(DISP)

・Q4 顧客稼働日数の影響は受けるが、顧客稼働率の改善トレンドは継続。FY23 に向けてもこの基調が続き売上・利益は FY23 を通じ拡大していく。
・新規材料のシェア拡大もプラスに寄与する。

(EC)

・スマホ市場の低調は続くがシェア拡大はプラス方向の影響になる。
・この環境下更なるシェア拡大を図る一方、コスト削減に一層注力し損益改善を進める。

(LS)

・Q4 は抗原検査キットの出荷タイミングの影響で QoQ 減益を見込む。抗原検査キットは来期も相応の規模での継続する見込み。
・KBI は Q4 にコロラド工場の大規模定修を実施。当期間の生産販売が止まり売上は減少する。一方、ノースカロライナ新工場の稼働は拡大。KBI の Q4 の損益は QoQ 改善する。FY23 に向けては最大の収益拡大ドライバーとなる。マージン改善へ KBI のコスト構造を改革させる。

(PLA)

・自動車市場の回復は続くが、自動車以外の電化製品などの環境は低調で Q4 は QoQ 販売減を見込む。
・定修及び定修関連の受払差発生の特異要因もあり減益見込み。
・FY23 は主に自動車市場の回復による売上利益は増加する見通し。

(その他)

・当期は計画比 10 億円以上の対計画コスト抑制を進める。来期も同水準に抑える計画。

(全体)

・半導体関連の調整局面の見極めは必要だが、中長期的な成長性にはなんら変化はなし。
・調整後の見通しは良好。他の事業は基本的に FY22 水準から成長の方向。

P14 業績見通しに関する市場前提

・今回の通期業績予想修正に関わる市場の見立ての変化。

(SEMI)

- ・当初、FY22 は一桁後半の市場成長を想定も、足元はほぼフラットの成長に落ちる。Q3→Q4 は-10%の市場下落が見込まれる。来期は後半に向け成長軌道に戻るが通期としては保守的な市場見通しを想定。

(DISP)

- ・パネルメーカーの稼働状況がパネル市況の悪化に伴い年度通じて急速に下落。足元はパネル在庫も適正化され9月の60%未満の稼働率を底に回復途上。来期も緩やかながら回復が続く。

(LS)

- ・堅調な成長が続く。

P15 半導体材料事業：固定費推移

- ・SEMI は FY22 に戦略投資を拡大。Inpria の統合、EUV の開発・製造の拡大。アジア拠点の販売・技サ強化等の中期成長テーマへの投資を拡大した。
- ・その他間接費はエラストマー事業譲渡に伴う一部間接部門の配賦が増加。中期的に最適化を進める。コスト構造見直しで-15 億円の効果。在庫受払、新 SAP 導入費用等の一時要因。
- ・FY23 に向け先行投資は拡大継続。アジアでは、韓国の販売拠点連結化に伴う固定費の取込がある一方、売上も同時に取り込む。又アジアの販売体制の更なる強化に向けた投資・販売体制の最適化を図り将来のコスト効率化につなげる。
- ・その他インフレによる諸経費、人件費の増加、燃料費の高騰等。コスト構造の見直しを一層進め、FY23 の販売状況に応じた柔軟性を高めていく。

P16 ライフサイエンス事業：KBI 新工場 生産計画の進捗

- ・KBI のノースカロライナで立上げ中の新工場の状況。横軸は Q 毎の見通し。縦軸は新工場の生産バッチ数のイメージ。Q3 に計 3 バッチの生産が進捗。
- ・1 月に 1 バッチの生産完了の他、2 桁のバッチ生産を開始する計画。
- ・FY23Q1 は既存のプロジェクトに加え、同じパートナー企業の次のプロジェクトの生産も計画。FY23 の後半に向け稼働が切りあがっていく。
- ・折れ線は要員計画内の生産キャパシティ。足元 KBI の損益状況が厳しい背景は生産キャパ(=固定費が発生)に対する稼働の低さ。来期の固定費の増加を抑制し、最大効率が果たせるキャパまで生産を拡大させる。

P17 ライフサイエンス事業：Indivumed 社の事業買収

- ・CRO 分野の事業ポートフォリオの追加と Crown とのシナジーが目的。欧州への地理的拡大も可能となる。4 月の closing に向け最終的な準備を行っている。取得価額は約 180MEUR を予定。
- ・対象事業はがん領域を中心とするバイオバンク事業。クリニカルサービス事業を行う。独自の検体取得方法に基づく高い技術を持ち、約 100 万検体のバイオバンクと豊富な医療ネットワークが強み。
- ・今期の損益への影響はなし。会計的な手続きはあるが、来期から利益貢献を見込んでいる。又早期に Crown とのシナジーも発揮する計画。

P18 中期経営方針

- ・当社のビジョンは、持続的成長によりすべてのステークホルダーに価値を創造すること。そして、環境変化に適用する強靱な組織をつくること。これらの活動を通じ、中長期的に企業価値の向上を実現していく。

- ・事業ポートフォリオは DS（特に SEMI）と LS をコアとし、この 2 事業がトップライン成長と ROIC の成長を牽引する。ターゲットとしては、FY24 に最高益を更新する。

P19 中期経営方針-進捗

(事業ポートフォリオ)

- ・エラストマー事業譲渡を 2022 年 4 月 1 日に完了。コア事業への戦略的投資を強化。具体的には昨年度の Inpria 買収、今回の CRO 分野での買収等。

(事業目標)

- ・FY24 の最高益更新の目標については、持続的な成長の通過点として達成を目指す。
- ・短期的な需要悪化に対するコスト削減等による基盤強化と同時に、将来の利益拡張に貢献する戦略投資、DX 等の投資を推進。

(資本配分)

- ・資本配分においては昨年度増配及び今年度は自社株買いを実施。資本配分方針は変更なしも足元は営業 CF の改善に注力する。

(事業戦略)

- ・前述の通り、DS では SEMI は最先端分野への投資、又グローバルな基盤強化への投資を積極推進。DISP は投資を逆に抑えつつ最適な事業体制により OLED 等新材料の展開に注力。
- ・LS は KBI の新工場立上げとマージン改善に注力。CRO 分野では新たなポートフォリオを加える。

【表記注記】

デジタルソリューション事業：DS

半導体材料：SEMI

ディスプレイ材料：DISP

エッジコンピューティング：EC

ライフサイエンス事業：LS

合成樹脂事業：PLA

以上